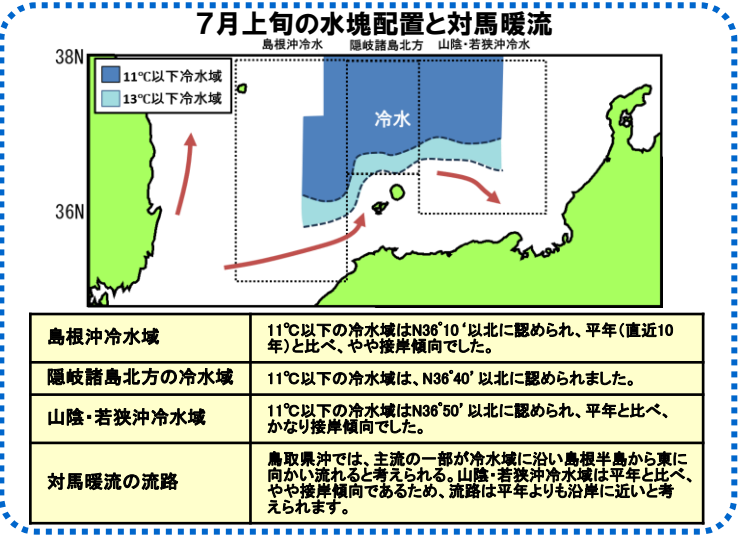
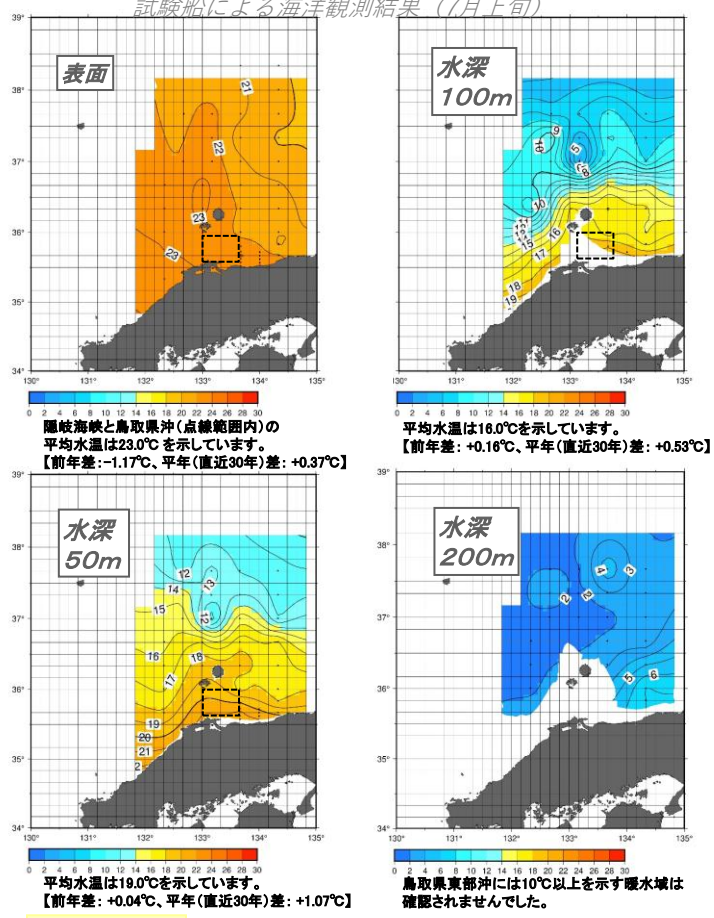
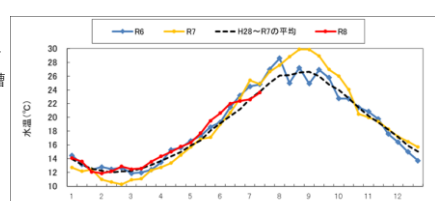




境港水産事務所

境漁港の水揚げ金額が200億円を突破！

境漁港における令和8年の水揚げ金額が、7月3日に200億円を突破しました(昨年は11月14日)。

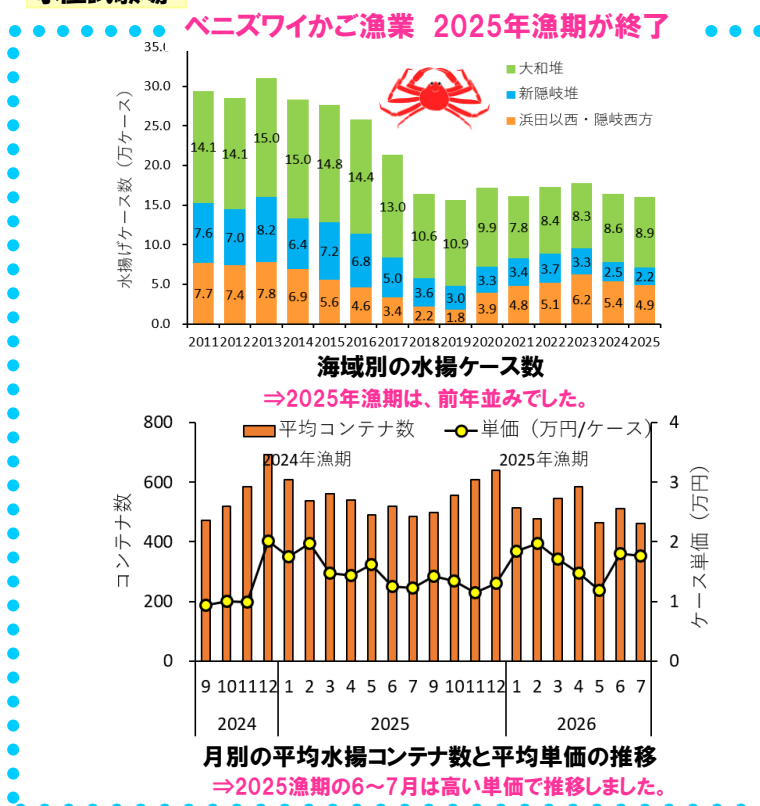
今年は主力のまき網漁業が昨年に引き続き好調で、境漁港全体の6月末までの水揚げ状況では、水揚げ量は10.2万t(昨年比110%)、水揚げ金額は198億円(同152%)と昨年を上回っています。特に単価が194円/kg(同139%)と高水準のため、水揚げ金額が昨年より大幅に増加しました。これは、さば類とマイワシが年末から好調だったことに加え、太平洋側でさば類とマイワシの水揚げが少なく、国内需要が高まり魚価が高くなったためと言われています。

マイワシの水揚げの様子

また、今年の大漁日(1,000t以上の水揚げ日)は7月3日時点で42回と、過去最高(平成25年の37回)をすでに超えています。

境漁港の年間水揚げ金額は、平成7年以降、300億円を突破していないため、今後順調に水揚げが続いて31年ぶりの300億円突破に期待したいところです。

昭和48年以降の水揚げ量・水揚げ金額



栽培漁業センター

～クロモの研究に着手しました～

クロモ(*Papenfussisella kuromoi*)は、特に県西部で古くから利用されてきたナガマツモ科の海藻であり、「ボウスゴロシ」の名で知られています。このクロモについて、漁業者から増殖に向けた要望があり、今年度から研究に着手しました。

クロモは海水温によって生活史を変化させる少々特殊な海藻であり、高温では微小な状態で生活するものの、低温では遊走子(種)から直接藻体に生育する生活史を持ちます。

現在、当センターでは低温・高温両方の環境を作り、生活史を再現する試験に取り組んでいます。まだ基礎的な段階ですが、生産技術の確立に向けた研究を続けていきます。

クロモの生活史「藻類の生活史形成より簡略」

1 微小藻類体
2 微小藻類体(芽生体)
3 微小藻類体(芽生体)
4 微小藻類体(芽生体)
5 微小藻類体(芽生体)
6 微小藻類体(芽生体)
7 微小藻類体(芽生体)
8 微小藻類体(芽生体)
9 微小藻類体(芽生体)
10 微小藻類体(芽生体)

高温条件
「微小藻類体」及び「芽生体」(図の2・5番)

低温条件
「微小藻類体」(図の3番)

水産振興課 漁業調整課

令和8年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様の支援をまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424

境港営業所 鳥取県境港市栄町92番地1 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

共和水産株式会社

代表取締役 橋津 寛

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL:0859-44-7171(代) FAX:0859-42-6530